

成田市で飲食店等を 運営する方

要件等に関する特例

- 以下に記載する各特例を適用する場合、それぞれ追加で提出の必要な書類があります。内容を御確認の上、申請書類と併せて御提出ください。
- (1) (2) (5) (6)について、中小企業・個人事業主の場合は、本特例を適用せず、下限額(6月21日～7月1日分においては、1日当たり2.5万円、7月2日～7月11日分においては、1日当たり3万円)による申請も可能です。

(1) 新規開業(開店) 特例・1

令和元年6月2日から令和3年6月20日までの間に新規創業し、売上高の計算に用いる令和元年又は令和2年6月及び7月の売上高が無い場合、下記の方法により支給額を算定することができます。

※事業年度末が未到来の場合は、「開業日から事業年度末まで」を「開業日から協力開始日の前日まで」として計算してください。

※「売上高」とは、いずれも、申請する店舗の飲食部門の売上高の合計額を指します。

中小企業・個人事業主の場合【売上高方式】

<6月21日～7月1日分>

(開業日から事業年度末までの売上高) ÷ (開業日から事業年度末までの日数) × 0.3
⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額(上限10万円)

<7月2日～7月11日分>

(開業日から事業年度末までの売上高) ÷ (開業日から事業年度末までの日数) × 0.4
⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額(上限10万円)

【計算例】(成田市で令和2年8月1日に開業し、事業年度末が令和3年3月31日の場合)

① 令和2年8月1日～令和3年3月31日の売上高 3,000万円

(6月21日～7月1日分) 30,000,000円 ÷ 243日 × 0.3 = 37,038円 ※営業日は初日を含む。
1円未満切上げ(以下同)
⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額 : 38,000円

(7月2日～7月11日分) 30,000,000円 ÷ 243日 × 0.4 = 49,383円
⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額 : 50,000円

② 上記で算定した「1日当たり支給額」に協力日数(P4早見表参照)を掛けます。

大企業の場合【売上高減少方式】 ※中小企業等も選択可

<6月21日～7月1日分>

下記アとイを比較していずれか低い額となります。

ア: (開業日から事業年度末までの1店舗当たりの売上高 ÷ 開業日から事業年度末までの日数) -
(令和3年度6・7月の売上高合計 ÷ 61日) = 1日当たりの売上高減少額 × 0.4

イ: (開業日から事業年度末までの売上高) ÷ (開業日から事業年度末までの日数) × 0.3

⇒ア、イのいずれか低い方の金額 ⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額(上限20万円)

【計算例】(成田市で令和元年8月1日に開業し、事業年度末が令和2年3月31日の場合)

① 令和元年8月1日～令和2年3月31日の売上高 2,500万円

令和3年6・7月の売上高合計 280万円

ア: $((25,000,000 \text{円} \div 244 \text{日}) - (2,800,000 \text{円} \div 61 \text{日})) \times 0.4 = 22,624 \text{円}$

イ: $(25,000,000 \text{円} \div 244 \text{日}) \times 0.3 = 30,738 \text{円}$

⇒ 金額の低いアを採用 ⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額 : 23,000円

② 上記で算定した「1日当たり支給額」に協力日数(P4早見表参照)を掛けます。

<7月2日～7月11日分>

(開業日から事業年度末までの売上高 ÷ 開業日から事業年度末までの日数) -
(令和3年度6・7月の売上高 ÷ 61日) = 1日当たりの売上高減少額 × 0.4

⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額(上限20万円)

【計算例】(成田市で令和元年8月1日に開業し、事業年度末が令和2年3月31日の場合)

① 令和元年8月1日～令和2年3月31日の売上高 2,500万円

令和3年6・7月の売上高 280万円

$((25,000,000 \text{円} \div 244 \text{日}) - (2,800,000 \text{円} \div 61 \text{日})) \times 0.4 = 22,623 \text{円}$

⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額 : 23,000円

② 上記で算定した「1日当たり支給額」に協力日数(P4早見表参照)を掛けます。

追加で必要な書類

計算方法の確認できる書類(様式任意。上記【計算例】参照。)

(法人の場合)

法人設立届出書の写し

(個人事業主の場合)

個人事業の開業届出書の写し又は開業日、所在地、代表者の記載がある公的書類の写し

(2) 新規開業(開店)特例・2

令和3年6月21日から令和3年6月24日までの間に新規創業した事業者は、下記の方法で支給額を算定することができます。

中小企業・個人事業主の場合【売上高方式】

<6月21日～7月1日分>

(開業日から協力開始日の前日までの売上高) ÷ (開業日から協力開始日の前日までの日数) × 0.3

⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額(上限10万円)

<7月2日～7月11日分>

(開業日から協力開始日の前日までの売上高) ÷ (開業日から協力開始日の前日までの日数) × 0.4

⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額(上限10万円)

【計算例】(成田市で令和3年6月22日に開業し、令和3年6月25日から協力を開始した場合)

- ① 令和3年6月22日～令和3年6月24日の売上高 50万円
(6月21日～7月1日分) $500,000 \text{円} \div 3 \text{日} \times 0.3 = 50,000 \text{円}$
⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額 : 50,000円
(7月2日～7月11日分) $500,000 \text{円} \div 3 \text{日} \times 0.4 = 66,667 \text{円}$
⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額 : 67,000円
- ② 上記で算定した「1日当たり支給額」に協力日数(P4早見表参照)を掛けます。

大企業の場合【売上高減少方式】 ※中小企業等も選択可

<6月21日～7月1日分>

下記アとイを比較していずれか低い額となります。

ア: (開業日から協力開始日の前日までの売上高 ÷ 開業日から協力開始日の前日までの日数) -
(協力を開始した日から令和3年7月11日までの売上高合計

÷ (協力を開始した日から令和3年7月11日までの日数) = 1日当たりの売上高減少額 × 0.4

イ: (開業日から令和3年7月11日までの売上高) ÷ (開業日から令和3年7月11日までの日数) × 0.3

⇒ ア、イのいずれか低い方の金額 ⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額(上限20万円)

【計算例】(成田市で令和3年6月23日に開業し、令和3年6月25日から協力を開始した場合)

- ① 令和3年6月23日～令和3年6月24日の売上高 55万円
令和3年6月25日～令和3年7月11日の売上高合計 300万円
ア: $((550,000 \text{円} \div 2 \text{日}) - (3,000,000 \text{円} \div 17 \text{日})) \times 0.4 = 39,412 \text{円}$
イ: $(3,550,000 \text{円} \div 19 \text{日}) \times 0.3 = 56,053 \text{円}$
⇒ 金額の低いアを採用 ⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額 : 40,000円
- ② 上記で算定した「1日当たり支給額」に協力日数(P4早見表参照)を掛けます。

<7月2日～7月11日分>

(開業日から協力開始日の前日までの売上高 ÷ 開業日から協力開始日の前日までの日数) -
(協力を開始した日から令和3年7月11日までの売上高合計

÷ (協力を開始した日から令和3年7月11日までの日数) = 1日当たりの売上高減少額 × 0.4

⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額(上限20万円)

【計算例】(成田市で令和3年6月23日に開業し、令和3年6月25日から協力を開始した場合)

- ① 令和3年6月23日～令和3年6月24日の売上高 55万円
令和3年6月25日～令和3年7月11日の売上高合計 300万円
 $((550,000 \text{円} \div 2 \text{日}) - (3,000,000 \text{円} \div 17 \text{日})) \times 0.4 = 39,412 \text{円}$
⇒ 千円未満切上げ ⇒ 1日当たり支給額 : 40,000円

② 上記で算定した「1日当たり支給額」に協力日数(P4早見表参照)を掛けます。

追加で必要な書類

計算方法の確認できる書類(様式任意。上記【計算例】参照。)

(法人の場合)

法人設立届出書の写し

(個人事業主の場合)

個人事業の開業届出書の写し又は開業日、所在地、代表者の記載がある公的書類の写し

(3) 事業承継・法人成り特例

令和元年6月2日から申請日までの間に合併・事業承継・法人成りなどがあり、申請者と参照月(協力金第10弾においては6・7月)の事業者が異なっている場合、下記書類により事業の連続性が確認できる場合には、当該参照月の売上で支給額を算出することができます。

追加で必要な書類

(法人の場合)

法人設立届出書の写し

(個人事業主の場合)

個人事業の開業届出書の写し又は開業日、所在地、代表者の記載がある公的書類の写し

(4) 罹災特例

震災、風水害、火災等の災害の影響を受けて、前年又は前々年の参照月(協力金第10弾においては6・7月)と同じ月の売上高が減っている場合で、下記書類により被災の事実が確認できる場合には、前々々年(2018年)の売上高により支給額を算出することができます。確定申告書類や売上台帳等は前々々年のものをご提出ください。

追加で必要な書類

罹災証明書等、被災の事実が確認できる公的書類の写し

(5) 複数店舗を運営している場合の特例

複数の店舗を運営している事業者で、確定申告書や売上台帳等には店舗ごとの売上高が明確に記載されていない場合は、全店舗の売上高合計を店舗数で割った金額を「店舗当たりの売上高」とすることができます。

追加で必要な書類

店舗数の確認できる書類(ホームページ、店舗の外観写真等)

計算方法の確認できる書類(様式任意)

(6) 飲食業以外の事業を行っている場合の特例

飲食業以外の事業を行っており、確定申告書や売上台帳等により申請店舗の飲食部門の売上高が明確に区分できない場合は、飲食業以外の売上高を含む売上台帳に、「飲食店事業売上高報告書」を添付して提出してください。

必要な書類

飲食店事業売上高報告書(必須)

飲食業以外の売上高を含む売上台帳等の写し